

akebonoの事業状況

当期の経営成績

2015年度※1におけるakebonoの業績は、日本国内において自動車生産が引き続き低調なこともあり減収となりましたが、海外市場においては、北米で自動車販売が過去最高の水準で推移したことや中国での新規受注の増加、欧州でのキャリパービジネスの拡大、円安による為替換算の影響(222億円)などもあり、売上高は過去最高の2,813億円と対前期比272億円(+10.7%)の増収となりました。利益面においては、中国での受注の拡大、国内拠点やアジア拠点での生産・調達合理化、経費削減などによる効果もあり、これらの地域については利益を確保しましたが、北米において一昨年に発生した生産混乱による影響が長期化したことから労務費や空輸による緊急輸送費などの追加費用が継

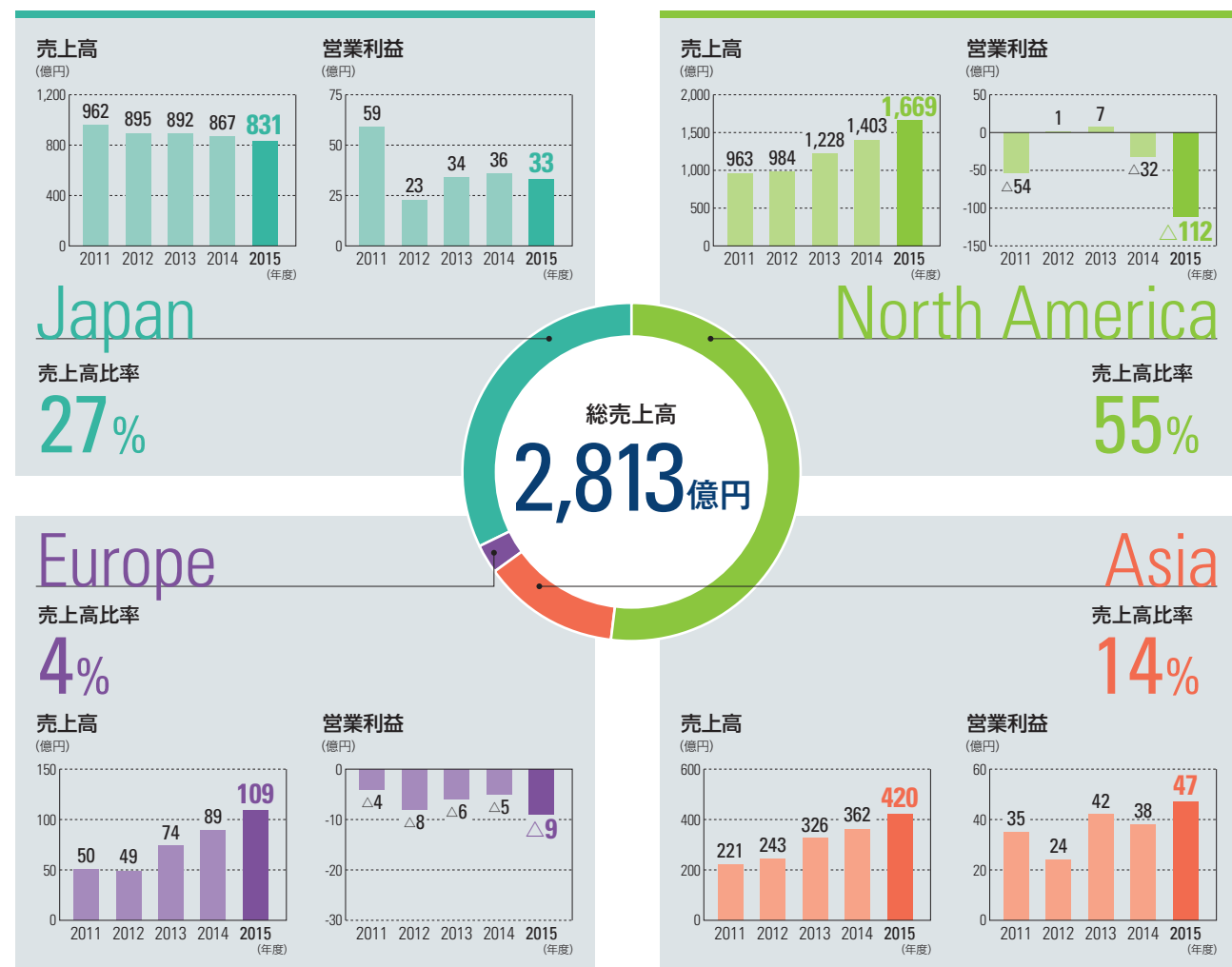
続して発生した影響が大きく、連結ベースで38億円の営業損失(前年同期は営業利益40億円)となりました。経常損益は為替差損の影響や支払利息などもあり68億円(前年同期は経常利益28億円)の損失となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券の一部を売却し特別利益を計上しましたが、北米において主にABEなどでの固定資産の減損損失の計上、事業構造改善引当金繰入額の計上やリコール関連損失※2を計上したこともあり、195億円の損失(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失61億円)となりました。

※1 (1) 北米・中国・タイ・インドネシア: 2015年1月～2015年12月

(2) 日本・欧州: 2015年4月～2016年3月 となります。

※2 2015年6月12日付の「米国GM社向け製品の不具合について」にて公表

At a glance



Japan

2015年度の振り返り

国内自動車市場は2015年度から導入された軽自動車を対象にした増税の影響により、軽自動車の需要が低迷し、国内自動車市場全体に影響を及ぼしました。akebonoの国内事業においても、自動車生産の低迷による減収や海外向け補修品売上高の減少による影響が大きく、売上高は831億円と対前期比36億円(△4.2%)の減収となりました。利益面では、受注減少による影響やグローバル化に伴う海外グループ企業の研究開発費の負担増加による影響

などがあり、業績連動による賞与などの人件費の減少、生産・調達の合理化や経費削減の効果などがあったものの、営業利益は33億円と対前期比3億円(△9.5%)の減益となりました。

2016年度の事業戦略と見通し

熊本地震の国内需要に与える影響など不透明な部分がありますが、国内は今期とほぼ同等の売上・営業利益を見込んでいます。

TOPICS

「第44回東京モーターショー2015」に大型SUV向け超高性能ブレーキキャリパーを展示

akebonoは、モータースポーツ活動を通じて培ってきたブレーキ技術のノウハウを結集して、超高速、高負荷、高温制動時のブレーキ性能と、高価格車両に求められる快適性、低ノイズの実現といった特性を併せもつ高性能量販車向けの「オポーズドタイプ(対向ピストンタイプ)10ポットブレーキキャリパー(片側5個ずつ、計10個のピストンをもつキャリパー)」を開発しました。適応車両は大型のSUVクラスで、高負荷のブレーキエネルギーを受けとめるために大面積のブレーキパッドが使用されることから、安定した制動を実現する

10ポットデザインを業界で初めて乗用車向けに採用しており、当社の欧州ビジネスが本格稼働したことを象徴するブレーキキャリパーといえます。

2015年10月から11月にかけて開催された「第44回東京モーターショー2015」では、同製品の初展示に加え、超高性能ブレーキキャリパー「オポーズドタイプ6ポットブレーキキャリパー」や、akebonoのブレーキシステムを搭載するスーパーカーであるマクラーレンの「P1™」車両も出展しました。



オポーズドタイプ10ポットブレーキキャリパー



「第44回東京モーターショー2015」akebonoブース

North America

2015年度の振り返り

米国における自動車販売台数は、原油価格の下落や積極的な販売金融供与が追い風となり、過去最高の水準で推移しました。akebonoの北米事業においても、旺盛な需要を反映した主要完成車メーカーからの受注の増加、および為替換算による影響(201億円)などにより、売上高は1,669億円と対前期比267億円(+19.0%)の増収となりました。一方、利益面では、生産混乱収束に向け生産性改善や他拠点への生産移管などさまざまな対策を講じましたが、当初の計画を大幅に下回り、メキシコも含め、112億円の営業損失(前年同期は営業損失32億円)となりました。

ABEでの一昨年から生産混乱は、日本からの設備保全支援や生産移管による同工場での生産負荷低減など諸施策の実行による効果が一部出ているものの、依然として受注量の高止まりにより3直7日稼働(週7日、24時間勤務体制)を全廃するには至らなかったことから、人件費の削減が実現できず、当該拠点として2期連続の赤字を計上せざるを得ない状況となりました。

ABGにおいても、一昨年末からの受注の急増により、休日出勤による労務費、生産逼迫による緊急輸送費などの追加費用が継続的に発生しました。この状況に対応するため、昨年5月に生産ラインの増設、日本からの保全や生産の専門家派遣による生産効率改善の実行や、ディスクブレーキパッドの生産の一部を日本や他のグローバル生産拠点に順次移管するなどの対策を講じましたが、想定していたとおり生産性が改善しなかったこともあり、一部緊急輸送が継続して発生しました。

ABCSにおいても、過重な生産負荷に加え、アルミ鋳造設備の故障を原因とする稼働率の著しい低下による客先への製品納入遅延回避のため巨額の緊急輸送費(空輸費用など)が発生し、大幅な損失を

計上しました。故障した鋳造設備については順次修理が完了し、生産能力の回復につれ緊急輸送費は大幅に減少しましたが、依然として受注は増加しており、当第4四半期において一部完成車メーカーへの対応により冬季休暇返上による残業代などの追加費用が発生しました。

北米事業の早期の安定的な黒字化はakebonoの最優先の経営課題であり、その実現に向けて現地経営体制の一新、販売品目の見直し、生産体制の変革などの北米事業の改革に着手し、着実に効果が出始めていますが、さらに改革のスピードを上げるため、抜本的な収益性向上を目指し、2015年度末において、ABEが保有する固定資産について、約69百万USドルの減損処理を行うこととなりました。またABCS、ABCTにおいても個別に不稼働の生産設備について減損損失を計上しました。併せて、北米事業の経営体制の改革に関わる費用(退職金引当などを含む、事業構造改善引当金繰入額)5億円を特別損失として計上しています。

2016年度の事業戦略と見通し

北米から他地域への生産移管などにより売上は減収が予想されますが、利益面では業績赤字の縮小を見込んでいます。収益性を優先した受注や生産移管による生産負荷の低減と生産性の向上、緊急輸送費の大幅な削減などにより、営業損失の縮小につなげていきます。体制に関しては、米国で実績のある人財を最高経営責任者CEOとして採用し、次いで最高財務責任者CFOを新規採用し、コンサルタントの支援も得て、経営の改革を加速させます。

2016年度はまだ営業赤字の解消まで至らないものの(△45億円)、2017年度から施策実行の効果が数字に表れ(12億円の営業黒字)、2018年度には35億円の営業利益を目指しています。

TOPICS

北米経営体制の改革をリードする米国子会社の社長兼CEOにDr. Wilm Uhlenbeckerが就任

北米の生産混乱の収束とガバナンスの強化を含めた北米経営体制の抜本的な改革に着手するために、akebonoの米国子会社で北米本社機能をもつABCの社長兼CEOにDr. Wilm Uhlenbecker(ヴィルム ウーレンベッカー)が就任しました。Dr. Uhlenbeckerは、機械工学博士号ならびにMBAをドイツのRWTH Aachen Universityで取得し、技術開発、品質管理など複数の分野においてマネジメントを経験してきました。同氏は戦略的な原価低減と生産拠点のリストラクチャリングを実施することで、企業を復活させてきた実績があります。

北米事業は今後、同氏のリーダーシップのもと、現地主導にて経営体制を強化していきます。



Dr. Wilm Uhlenbecker

Europe

2015年度の振り返り

穏やかな景気回復の影響を受け、自動車販売台数は前年より増加しましたが、依然として欧州債務危機前の水準を下回っています。欧州事業においては、一部の補修品ビジネスが減少したものの、グローバルプラットフォーム(全世界での車台共通化)に対応した製品(アジア拠点からの輸入)や、ハイパフォーマンスブレーキ製品の売上(当社北米拠点からの輸入)が好調なこともあり、売上高は109億円と対前期比20億円(+22.2%)の増収となりました。利益面では、スロバキア工場の操業開始に伴い人件費や減価償却費などの費用が嵩んだことや将来の拡大を睨んだキャリパービジネスの営業体制構築に

伴う費用が発生しましたが、ディスクブレーキパッドの販売価格の適正化や生産工場における生産工程の改善効果が出始めてきていること、調達合理化の効果などもあり、営業損失は9億円(前年同期は営業損失5億円)にとどまりました。

2016年度の事業戦略と見通し

2016年度の売上は微減する見込みです。営業損益については、製品別の構成変化とともに、将来に向けたハイパフォーマンスブレーキ生産立上げに係る費用が増加することにより営業損失が続く見込みです。

TOPICS

欧州でのディスクブレーキ一貫生産供給体制を実現する 製造子会社Akebono Brake Slovakia s.r.o.が量産を開始

akebonoは2014年、欧州での事業基盤の強化に向けて、スロバキア・トレンチーン市にディスクブレーキの製造子会社Akebono Brake Slovakia s.r.o. (ABSK) を設立しました。欧州では、これまでフランスのAASAでディスクブレーキパッドを製造してきましたが、今後はABSKを加えた欧州での一貫生産供給体制により、グローバルベースでの競争力強化につなげていきます。2015年6月には、ABSKの開所式を行いました。式典は、スロバキア経済産業省第一副大臣のラスチスラフ・ホバナツ氏、トレンチーン市長のリチャード・リブニー

チェック氏、駐スロバキア日本大使の江川明夫氏をはじめ来賓の方々と、akebonoを代表して社長の信元久隆と役員およびABSKの社員合わせて約50名が出席し、盛大に執り行われました。式典では記念の植樹、記念品贈呈、オープニングのテープカット、工場見学などを実施しました。現在は鋳鉄製ブレーキキャリパーの組み立てを行っており、2016年8月からは量産を開始予定。将来的には高性能量販車向けアルミ製ブレーキキャリパー生産用最新鋭設備をもつ重要拠点とすべく検討を進めています。

※役職名は当時

子会社の概要

- (1) 名称：Akebono Brake Slovakia s.r.o.
- (2) 所在地：スロバキア共和国トレンチーン市
(首都ブラチスラバ北東110km)
- (3) 代表者：Jean de Montlaur (ジャン ドゥ モンロー)
- (4) 事業内容：自動車用ブレーキの製造および販売
- (5) 資本金：12百万ユーロ
- (6) 設立：2014年4月1日
- (7) 出資比率：Akebono Brake Europe N.V.
(当社100%子会社) 100%
- (8) 敷地面積：約42,000m²
- (9) 建屋面積：約12,000m²
- (10) 生産開始：2015年8月



Akebono Brake Slovakia s.r.o.
(ABSK)開所式



ABSK 社屋

Asia

2015年度の振り返り

中国の2015年度前半における自動車販売台数は需要の低迷や在庫の積み上がりにより前年比微増に留まりましたが、10月に導入された小型車(排気量1600cc以下)を対象にした減税効果により、年度後半に販売需要が大幅に増加しました。中国事業においては、グローバルプラットフォーム車向け製品の販売増加や新規客先向けビジネスを含む受注

の拡大、円安による為替換算の影響(20億円)もあり、売上高は194億円と対前期比51億円(+36.0%)の増収となりました。利益面では、減価償却費の増加、人件費の上昇などがあったものの、受注の拡大による利益増加や生産・調達合理化、経費削減効果などもあり、営業利益は25億円と対前期比8億円(+50.5%)の大幅な増益となりました。

タイでは依然として国内販売台数は低迷が続い

ていますが、輸出台数はピックアップトラックに加えて、エコカーの世界拡販が加わった影響を受け、同国における車の生産台数は過去最高を更新しました。タイ事業においても、内需の不振を好調な輸出が補い、完成車メーカーに加え、中近東向けを中心にした補修品売上高が増加したことから、売上高は60億円と対前期比5億円(+9.8%)になりました。利益面では、減価償却費の増加などがありましたが、補修品の受注増加による利益貢献が大きくなり、営業利益は5億円(+81.1%)と増収増益になりました。

インドネシアの2015年度における自動車、二輪車市場は生産・販売ともに前年比で大きく下回ったものの、国内販売市場は中長期的に今後さらなる拡大が期待されます。インドネシア事業においては、内需の低迷や日系四輪自動車メーカーにおける年度

末の在庫調整による減産、二輪車メーカーからの受注の減少などがあったものの、欧州向けグローバルプラットフォームに対応したブレーキ製品の出荷が好調だったことなどもあり、売上高は166億円と対前期比2億円(+1.1%)の増収となりました。利益面では、受注の減少に加え、人件費の上昇や減価償却費の増加などもあり、営業利益は17億円と対前期比1億円(△7.6%)の減益となりました。

2016年度の事業戦略と見通し

引き続き中国を中心とした積極的な事業展開により売上は増加を見込んでいるものの、利益面においては製品別構成比率の変化、労務費の高止まり、環境対策費用の増加などもあり、今期並みの営業利益を見込んでいます。

TOPICS

グローバルでの競争力強化の一環として設立された A&M Casting (Thailand) Co., Ltd.にて火入れ式を実施

akebonoは、2014年10月、タイに(株)真岡製作所との合弁会社として、自動車用鋳鉄部品の製造会社、A&M Casting (Thailand) Co., Ltd.を設立しました。当合弁会社では、AKBT向けに、ブレーキキャリパー用鋳鉄部品を中心として2017年までは月産600トンを生産し、2018年以降市場

動向を見据えながら、月産1,300トンへの拡大を予定しています。また、タイでの鋳鉄部品の他社への販売も検討しています。2014年12月に定礎式を行い、2015年12月には、曙ブレーキ工業および真岡製作所の両社の幹部が参加して火入れ式を行いました。



火入れ式に参加した役員、従業員

子会社の概要

- (1) 名称：A&M Casting (Thailand) Co., Ltd.
- (2) 所在地：タイ王国ラチャブリ県ラチャブリ工業団地内
(首都バンコク 西約100 km)
- (3) 代表者：長崎正視
- (4) 事業内容：自動車用鋳鉄部品の製造および販売
- (5) 設立：2014年10月
- (6) 出資比率：曙ブレーキ工業(株) 74.9%
(株)真岡製作所 25.1%
- (7) 敷地面積：約37,000m²
- (8) 建屋面積：約5,000m²
- (9) 生産開始：2016年8月予定